

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
J201	日本社会の成り立ち	2年	講義	2	安藤哲
<b>授業概要</b> 人間が社会生活を継続できるのは、生命活動に必要なエネルギーを、組織的に獲得して消費しているからです。エネルギーの獲得と消費の組織化が社会に期待されている大切な要件とすれば、社会の特質はその獲得と消費のあり方を反映しています。生命活動に必要なエネルギーは光合成で産出され、その後の循環過程で消費され、地球生命のほぼ全体を維持しています。人間の社会はこれを経済活動と表現しています。日本社会の成り立ち、つまり日本社会の規範や特質の多くは、エネルギー循環の出発点に位置する農業、林業、そして漁業も含めた営みや消費のあり方、管理の仕組みを反映し、したがって授業の対象は生産と消費、これに関わる政治や経済のシステムや文化など、多岐にわたります					
<b>到達目標(学習の成果)</b> エネルギー循環の視点から見た生産と消費の多様な関係は、これらを調整する慣行や規範、制度として姿を顕わし、次第に変化しながらその社会の特質として刻印されていくことを、歴史的視点を通して幅広く理解し、日本社会の成り立ちを大局的に把握する教養を身につけます					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	人口密度の高い社会①	履修にあたっての諸注意と心がまえを理解し、日本社会の成り立ちを学ぶ意義を考え、また履修者の基礎知識を確認する			
2	人口密度の高い社会②	なぜエネルギー生産や獲得、利用の仕組みが社会を特徴づけるのか			
3	人口密度の高い社会③	高い人口密度をもたらした日本社会の特質			
4	「むら」の自治精神①	森林と穀物生産と生活が共存する社会			
5	「むら」の自治精神②	林野が「むら」のものとして、規範をもって利活用されていた頃のこと			
6	「むら」の自治精神③	コメが育んだ日本の規範1 灌漑はむらの協力を産むということ			
7	「むら」の自治精神④	コメが育んだ日本の規範2 技術はどのように発展するのだろうか			
8	家畜を必要としない社会①	火山灰土壌をもたらす進取の気取り			
9	家畜を必要としない社会②	家畜を必要としない社会			
10	家畜を必要としない社会③	日本畜産と農耕の不整合が生み出す文化			
11	共有漁場が育んだ規範①	海辺の生活が育む自給的漁場の規範			
12	共有漁場が育んだ規範②	魚が畑の肥料となってもたらされた豊かな社会と文化			
13	共有漁場が育んだ規範③	鮭文化の先進とグローバル性			
14	単婚家族の誕生①	田分け者という規範			
15	単婚家族の誕生②	「イエ」が必要とされた社会のあり方			

準備学修(授業外の自己学修)

- 1 毎授業時に配布する資料をよく読み、不明な点を調べ、次授業での質問に答えられるようにする
- 2 授業中にとりあげる用語は、調べ直しを通して深く理解しておく

成績評価の方法・基準(%表記)

定期試験 (100%)

観点	S	A	B	C
規範や制度の特質を理解している	理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
規範や制度は歴史的に形成されたことが理解できている	理解できている	ほぼ理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書

使用しない

参考書等

毎授業時に配布する

履修上の注意・学修支援

授業内容は相互に関係することが多いので、欠席しないように心がけること、座席は任意ですが固定します  
なお、準備学修や復習を通して生れた疑問や理解できないことについては、授業後質問すること